

MOTTAI NAI (もったいない)

卒業式を終えて(卒業式は何故泣ける?)

長い目で子どもの成長を見よう!

3月16日(木)天美小学校の141回目の卒業式を終えました。

たくさんの来賓の方にもご出席いただき、素晴らしい卒業式を終えることができました。

私自身は、直接関わったのは、この1年だけですが、運動会や修学旅行、子どもたちと良い思い出も重ねることもでき、感慨もひとしおでした。担任の先生、これまで関わった教職員、保護者に心中至っては、なおさら、その喜びは大きかったと思います。

尚、卒業式の式辞では、「人に負けても自分に負けない」「大切なことは目には見えない」「お天道様は見ている」の3つについてお話ししました。式辞は、HPでご覧いただけます。

天美小学校の卒業式を始め、第五中学校の卒業式、四つ葉幼稚園の卒園式、天美保育園の卒園式と学齢の違う、4つの卒業・卒園式に出席しました。もちろん、涙腺の弱い私は、その度に、(;ω;)でした。

そして、考えました。どうして、卒業式は泣けるんだろう?

日々の生活では、「〇〇しなさい!」「早く!」というような、慌ただしい日常が、多くのご家庭で続いているのではないのでしょうか?私も、担任をしていた時、家で交わされる「早く…!」「もう、早く…!」と、機関銃のように続く連れ合いの言葉に、「あんまり言わんといて、学校を思い出す」といったことがあります。私も、担任として、「早く!」を連発していました。

保育園や幼稚園では、登園時の送迎もあり、泣きながら園に届けていた子どもが、卒園時には、たくましく、一人でいろんなことができるようになり、乳児・幼児から、次は小学生という成長した姿に、大きな感動と長い年月の子育ての苦労とも重なるのかなと思います。

小学生も、身体より大きなランドセルが、いつの間にか小さくなり、中学校でも、心身とも大人に負けない成長に、同様の感動があるのかなと思います。

そう考えたとき、毎日毎日に追われてしまうと、進歩や成長が見えにくいけど、長いスパンで見ることで、成長の喜びというものが見えてくるのかなと、思いました。

明日の修了式では、一年間の課業を終えた通知票を持って帰りますが、一年前より大きく成長した、一人ひとりの子どもの姿を認めてあげてください。そして、親子で成長を喜びましょう。



自然を受け入れる、「しょうがない」を受け入れると…

先日、久しぶりに、電車と徒歩で帰ることがあった。理由は、化学式でいうと、 C_2H_5-OH 、原材料は、麦・米・ブドウだった。(^^)いつもの自転車と違い、ゆっくり歩いて帰ったので、信号待ちの時や進行方向に夜空が目に入ってきた。春といっても、まだまだ寒い夜空。大学時代の友人と C_2H_5-OH で向き合ったこともあり、夜も遅いこともあって、空気が澄んでいたのか、月明かりの中でも、かなりの星がきれいに輝いていた。「たまには、歩いて帰るのもいいな」「大阪の夜空も素敵」「でも、また、朝になると太陽が上がり、本当は存在する数々の星も目には見えなくなる」「自然の力って、凄い、不思議」…と。



そんなことを考えていた時、依然、「農業をやっている人は、自然を受け入れてやっている」ので、心が落ち着いている人が多い…」というような言葉を思い出した。農業は、季節、雨、乾燥といった大きな自然の力に逆らわず、逆にその力を利用して、その場所、その季節、その気象条件にあった栽培をしている。だから、私たちが、雨が降ると「傘がいる…」「カップを着て…」と、つい面倒なことも、稲作の農家にとっては、恵みの雨。そこから、何事にも感謝する考え方や、自然に逆らわず、むしろ自然の変化を理解するため、天文学は発達してきた。

気象としての、雨や風、冷たさ暑さ等々の厳しさに限らず、日々の生活の厳しさも、「しょうがない」と受け入れることで、心が落ち着けることもあるようにも思います。

さすが5年生！4年生！

今年、天美小学校は「3つの“あ”」ということで、良い習慣を育成する行動目標を設定した。あいさつ・あつまり（時間）・あとしまつ。3つめの、あとしまつについては、私も時々、下足箱のくつを揃えている。

今日も、くつを揃えていると、5年生、4年生は、ほとんど触らずにすんだ。さすが、5年生！4年生！次の4月からの高学年も頼もしい。



アジアリサイクル運動 4/8(土)

偶数月の第2土曜日に実施しているアジアリサイクル運動。4月は、8日(土)が実施日になります。

今年は、始業式が10日で、入学式の翌日になります。

我が家も、長男一家との同居が始まり、今、家財の整理中。大掃除などで、不要になったものがありましたら、よろしくお願いいたします。

編集後記

まずは、お詫びと訂正です。前回28号として出したものは、27号でした。お詫びして訂正いたします。

何とか、毎週とはいきませんでした。が、一年間発行することができました。時折、「楽しみにしています」等々の声もいただき、励みになりました。

次年度も、子育てについての良い習慣や家庭の食卓の話題になるよう、発行したいと思っています。

一年間、ありがとうございました。